

2019年3月期 決算説明会

中期経営計画 2019-21 ～ To the Growth Cycle ～

極東開発工業株式会社



極東開発のグループ構成

極東開発工業株式会社

特装車事業

83%

■ 製造・販売・サービス

日本トレクス㈱
 極東開発(昆山)機械有限公司 (中国)
 MITHRA KYOKUTO SPV CO., PVT. LTD. (インド)
 TREX THAIRUNG CO., LTD (タイ)
 PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA (インドネシア)
 PT KYOKUTO INDOMOBIL DISTRIBUTOR INDONESIA (インドネシア)

■ サービス

㈱エフ・イ・テック
 振興自動車㈱
 井上自動車工業㈱

■ 中古車販売

㈱FE-ONE

■ 関連

極東特装車貿易(上海)有限公司 (中国)

環境事業

11%

■ リサイクル施設の建設/運転受託・メンテナンス

極東サービスエンジニアリング㈱
 極東サービスエンジニアリング北海道㈱
 ㈱モリプラント
 ㈱エコファシリティ船橋

不動産賃貸等事業

6%

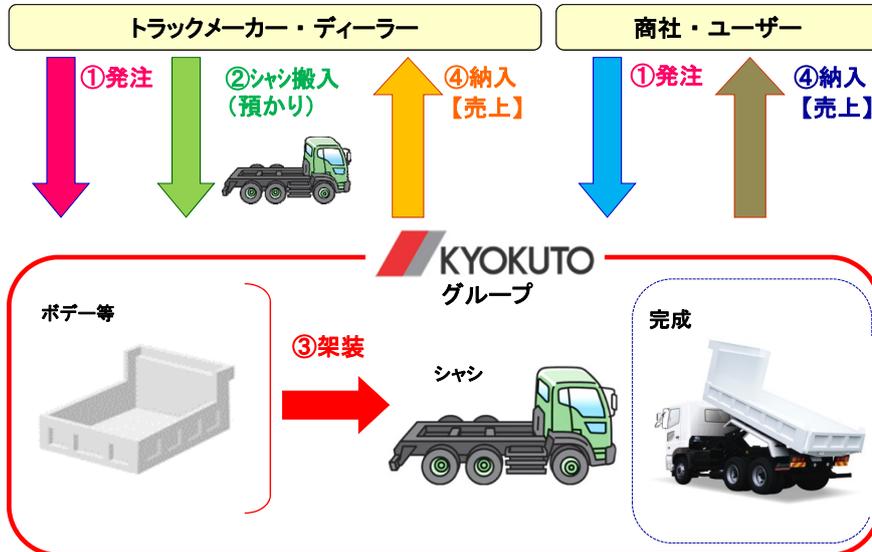
■ 立体駐車装置、コインパーキング

極東開発パーキング㈱
 ㈱エフ・イ・イ
 ささしまライブパーキング㈱

<比率は売上構成比(2019年3月期)>



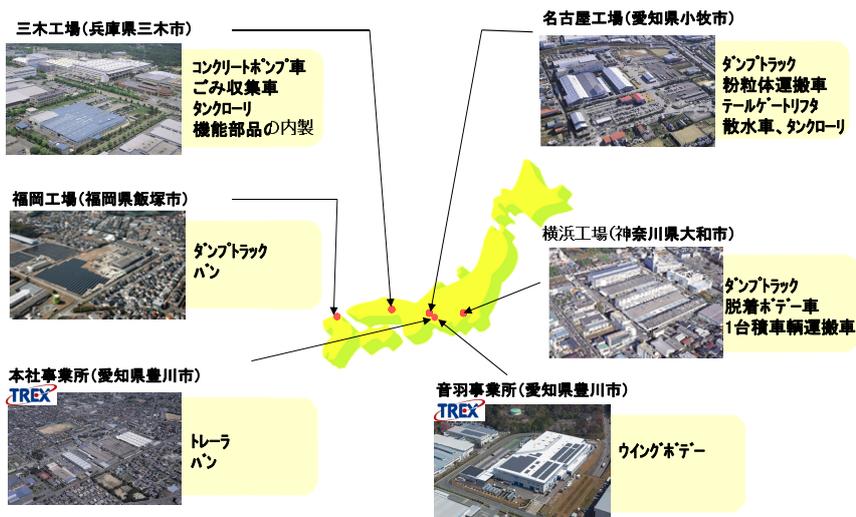
特装車事業



コンクリートポンプ車等一部の製品についてはシャシは買取。



国内生産体制





グループ主力製品



コンクリートポンプ車



粉粒体運搬車



トレーラ



1台積車輛運搬車



タンクローリ・散水車



テールゲートリフタ



ダンプトラック



脱着ボデー車



ごみ収集車



ウイングボデー車



海外生産体制



【インド】MITHRA KYOKUTO SPV CO., PVT. LTD.



ダンプトラック
ミキサートラック

(操業開始: 2012年10月)

【中国】極東開発(昆山)機械有限公司



ミキサートラック

(操業開始: 2005年4月)

【タイ】TREX THAIRUNG(タイルーン) CO., LTD



ウイングバン
10ドアバン
ダンプトラック
ミキサートラック

(操業開始: 2015年11月)

【インドネシア】PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA



ダンプトラック
ミキサートラック
テールゲートリフタ

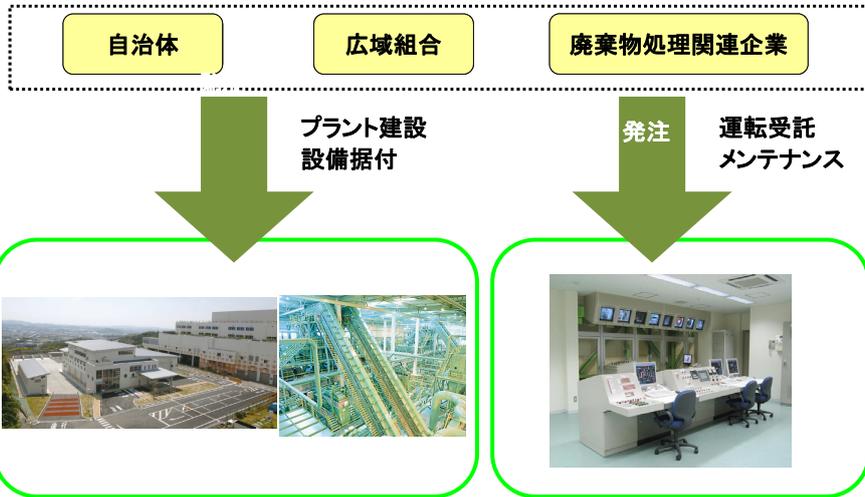
(操業開始: 2014年2月)





環境事業

KYOKUTO



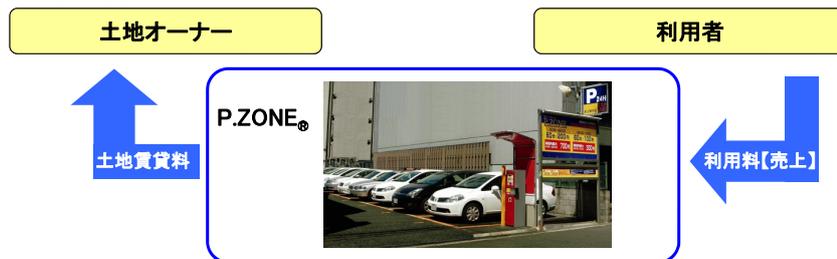
不動産賃貸等事業

KYOKUTO

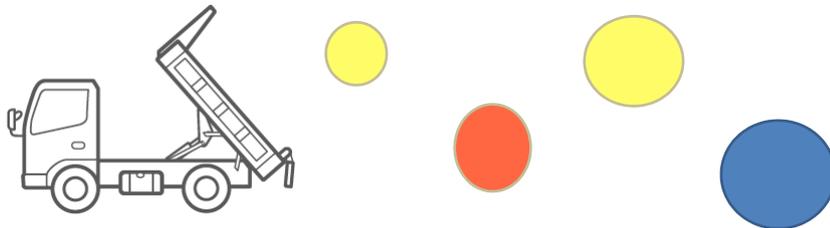
【立体駐車装置】



【時間貸駐車場】

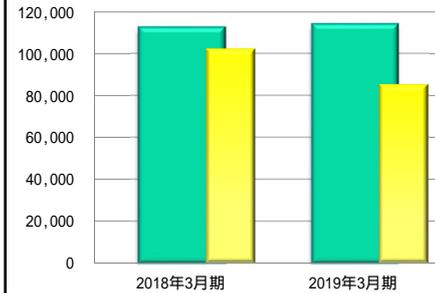


2019年3月期 連結決算実績



2019年3月期 連結決算

売上高(百万円) ■売上高
■営業利益



営業利益(百万円)

売上高(前年比)		
✓特装車事業	△3.0%	△2,898百万円
✓環境事業	+53.2%	+4,495百万円
✓不動産賃貸等事業	△0.7%	△52百万円
営業利益(前年比)		
✓特装車事業	△32.3%	△2,680百万円
✓環境事業	+69.6%	+1,058百万円
✓不動産賃貸等事業	+0.5%	+6百万円
営業外収益・費用		
✓営業外収益		529百万円
✓営業外費用		266百万円

	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比増減	
売上高	112,890	114,301	+1,611	+1.4%
営業利益	10,245	8,554	△1,690	△16.5%
経常利益	10,330	8,817	△1,512	△14.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,190	6,284	△905	△12.8%

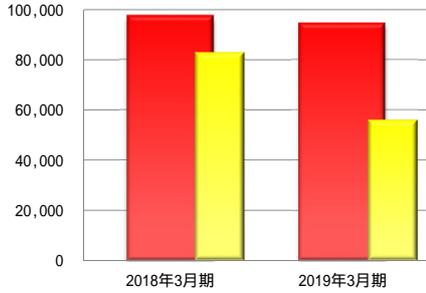
特別利益・損失	
✓特別利益	402百万円
✓特別損失	65百万円
親会社株主に帰属する当期純利益(前年比)	
✓法人税等	+54百万円



2019年3月期 特装車事業



売上高(百万円) ■売上高
■営業利益



営業利益(百万円)

売上産

✓ 物流系車両の売上の減少

✓ 建設系車両は底打ち傾向

✓ 受注は高水準を維持

営業利益

✓ 材料費・人件費・償却費等のコストアップ

✓ 製品構成の変動

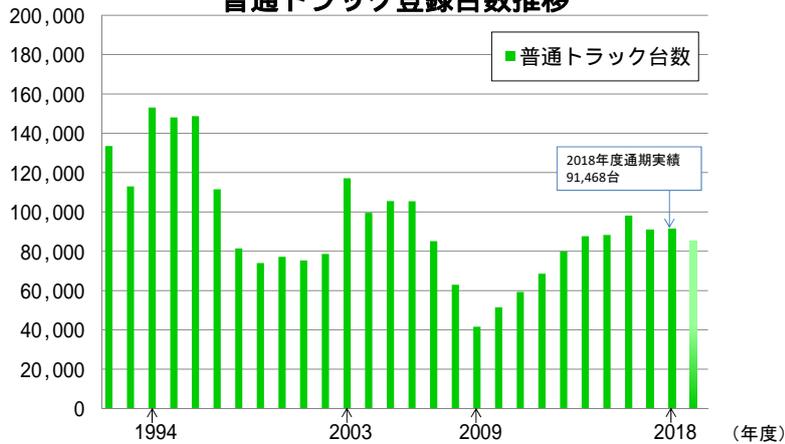
	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比増減	
売上高	97,786	94,888	△2,898	△3.0%
営業利益	8,295	5,615	△2,680	△32.3%



2019年3月期 特装車事業(市場環境)



普通トラック登録台数推移





2019年3月期 環境事業



	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比増減	
売上高	8,457	12,952	+4,495	+53.2%
営業利益	1,522	2,581	+1,058	+69.8%

13



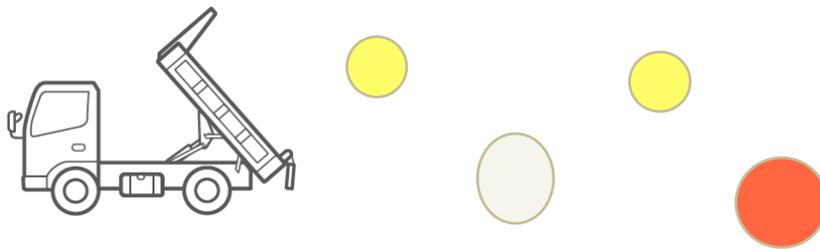
2019年3月期 不動産賃貸等事業



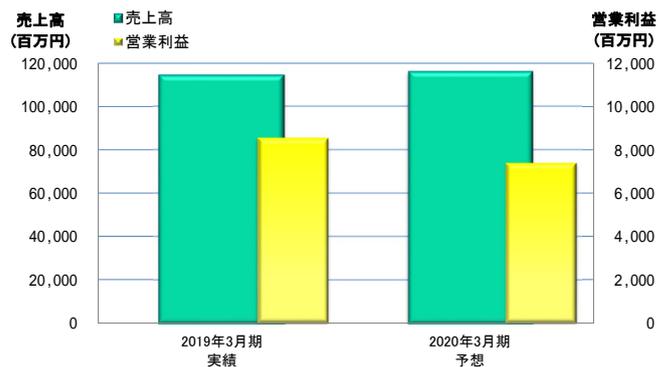
	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比増減	
売上高	7,087	7,035	△52	△0.7%
営業利益	1,155	1,161	+6	+0.5%

14

2020年3月期 連結業績予想



2020年3月期 連結業績予想



	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前年同期比増減	
売上高	114,301	116,000	+1,699	+1.5%
営業利益	8,554	7,400	△1,155	△13.5%
経常利益	8,817	7,500	△1,318	△14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,284	5,200	△1,084	△17.3%



2020年3月期 セグメント別予想



		2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前年比増減	
特装车事業	売上高	94,888	98,200	+3,312	+3.5%
	営業利益	5,615	5,700	+85	+1.5%
環境事業	売上高	12,952	11,500	△1,452	△11.2%
	営業利益	2,581	1,400	△1,181	△45.8%
不動産賃貸等 事業	売上高	7,035	7,000	△35	△0.5%
	営業利益	1,161	1,100	△61	△5.3%
調整額	売上高	△ 575	△ 700	△ 125	-
	営業利益	△ 803	△ 800	+3	-

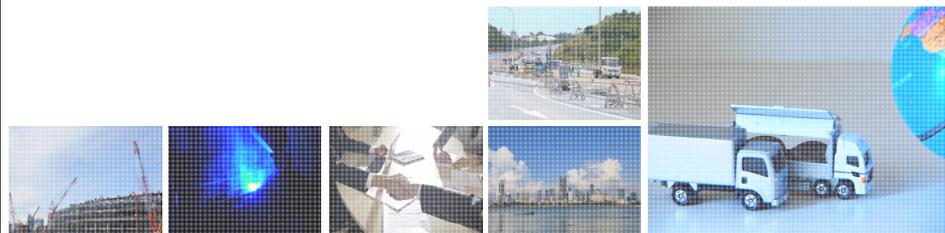
17



中期経営計画 2019-21

～ To the Growth Cycle ～

(計画期間：2019年4月1日～2022年3月31日)



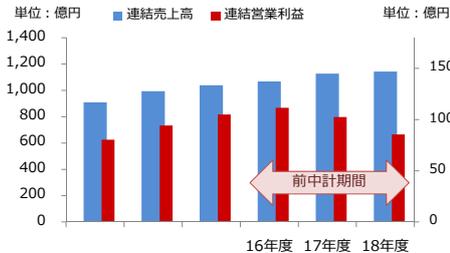


前中期経営計画の振り返り



国内市場が減退する中でも成長基調は維持。他方で利益率は低下

中期経営計画2016-18 ~Value up to the Next~



	2018年度 前中計目標	2018年度 実績	
連結売上高	1,000億円以上	1,143億円	達成(○増収)
連結営業利益	90億円以上	85億円	未達(×減益)

- ✓ 国内普トラ市場が2016年度をピークに減少する中、連結売上高は拡大・維持
- ✓ 売上構成の変化、特装生産効率の悪化、固定費の高止まり等の影響で利益率は大幅に低下

基本方針	達成・進捗項目	引き継ぐ課題
国内収益基盤の強化	○新パワーゲートセンター・PANECTライン等生産体制整備 ○重点製品のモデルチェンジ	☆横浜工場 中小型ダンブ製造(製缶)ラインリニューアルの完成 ☆シェアアップ・利益改善
海外売上上の確立	○インド・インドネシア成長の兆し	☆収益基盤の確立
M&A・新規事業の推進	○林業分野における製品開発 ○井上自動車工業・モリプラント・北陸重機工業	☆各分野の事業成長
企業品質の向上	○品質意識・安全意識の高揚に向けた取組み ○新人事制度スタート、海外派遣サポートの充実	☆人材育成、業務効率化

19



中期経営計画 2019-21 概要・基本方針



- 計画名称 **中期経営計画 2019-21~ To the Growth Cycle ~**
- 計画期間 **2019年4月1日 ~ 2022年3月31日 (3か年計画)**
- 基本方針

グループの目指す姿「持続的に成長し、広く選ばれるKYOKUTO」
となるために、以下の基本方針に取り組み、
未来に繋がる成長サイクルを確立します。

- 1 生産性の向上と利益体質の強化
- 2 将来の収益源の創出
- 3 企業品質の向上と社会的価値の深化

20



業績目標

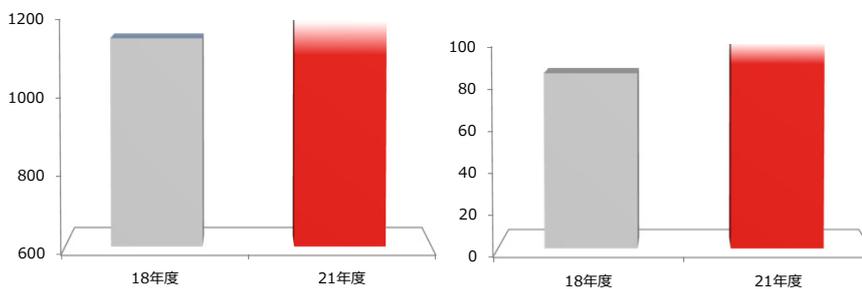


厳しい市場環境の中でも既存事業の成長・充実で以下の業績を確保

2021年度目標

連結売上高
1,100億円以上

連結営業利益
90億円以上



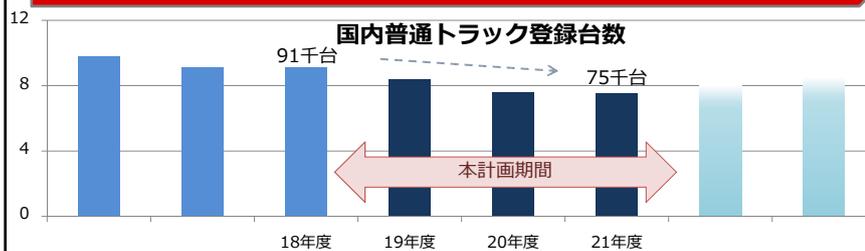
21



今後の市場環境



2021年度 国内普通トラック登録台数(想定)：7万5千台に減少(▲約18%)



国内市場

- ・本中計の最終年度となる2021年度は、前年夏季開催の東京五輪の反動もあり、日本経済は一時的にやや停滞するものと予想
- ・前中計で牽引したBOX系（ウイング・バン）のピークアウトを想定
- ・人手不足の深刻化により、輸送・作業の効率化・省力化ニーズはさらに高まる

海外市場

- ・当社グループが主なターゲットとするアジア地域は、中長期的には内需主導で経済成長を持続する見通しであるものの、足元では中国経済の減速、各国の政治状況等のリスクを抱え、先行きの不透明感を増している
- ・インフラ需要に加え、都市化に伴い環境・物流関連の需要は高まる

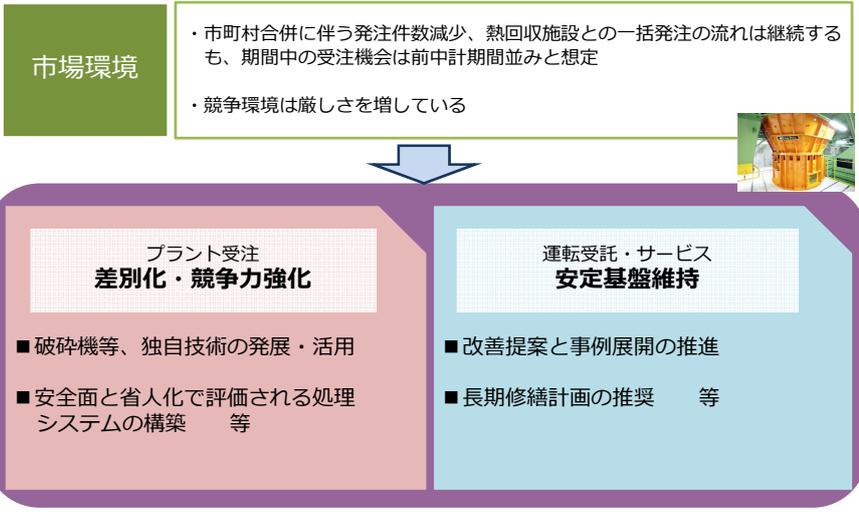
22



前中計までに実施した設備投資の運用と新たな設備投資により 売上の拡大・生産性向上を図る



独自技術・安全性等で差別化し、プラント受注確保 サービス提案力・工事対応力で安定基盤維持





立体駐車装置はリニューアル物件の受注に注力
時間貸し駐車場は各事業地の収益確保、新規事業地の選別受注に注力

市場環境

- ・立体駐車装置事業は、少子高齢化・若者の車離れにより新規案件は低水準も、代替期を迎え、リニューアルは市場拡大
- ・時間貸し駐車場事業は、2019年10月の消費増税により一時的に利益減が予想されるものの、駐車場不足は解消されておらず、今後も市場拡大は続く見込み



極東開発パーキング株式会社

立体駐車装置
リニューアル受注に注力

- リニューアル物件の受注に重点をおき情報源の拡大、客先目線の提案活動を行う
- リニューアル用に他社と差別化した商品の開発
- 過去納入物件の修繕提案を積極的に行い、リニューアルにも繋げていく

時間貸し駐車場運営
各事業地の収益確保
新規事業地の選別受注

- 事業地毎の借地料交渉・タイムリーな価格改定
- 入札物件を含む新規事業地の選別受注
- 業務提携による事業拡大



IoT・AI等の活用を積極的に進め、
製品・サービスの付加価値向上と社内業務の効率化・自動化を推進する

IoT・センシング
⇒見える化・データ化



AI
⇒画像認識・自然言語処理
音声認識・予知予測



製品・サービスの付加価値向上



作業効率や操作性・安全性の向上
サービス支援(K-DaSS)

社内業務の効率化・自動化



スマートデバイス
・音声認識の活用

RPAの導入
(間接業務の効率化)

現場作業の
効率化・自動化



将来の収益源の創出 ～海外事業の収益基盤確立



海外経済の先行きが不透明さを増す中、収益基盤確立に向けてリソースを投入
日本・中国を含めてグループで連携したクロスボーダーな事業展開を推進

海外拠点

✓ 売上拡大から収益基盤確立へ
パラダイムシフト

インドネシア工場 (Kyokuto Indomobil)

- ダンプ・ミキサーの安定受注確保
- サービス体制の確立

インド工場 MITHRA KYOKUTO

- ダンプOEM生産量を向上 (VOLVO向け拡大、他メーカーへ展開)
- コストバランスの適正化

タイ工場 TTR

- 建設系(ミキサー・ダンプ)に特化し固定費を抑制



中国(昆山)



インドネシア



インド



タイ

輸出・グループ支援

✓ 国境を越えてグループ間で連携・役割分担することで全体最適化を図る

極東開発工業(日本) KYOKUTO

- 輸出量産ダンプの受注拡大
- ユニット販売の促進
- 販売店増設(アジア・中近東)
- 新規海外専用機種の開発

昆山工場 坂東开发(昆山)机械有限公司

- ミキサー マザー工場
- 日本向け部品拡大

極東特装車貿易(上海)

- 日本向け新規製品の開拓と原価低減



将来の収益源の創出 ～新分野の事業確立



グループの強みを活かせる既存事業周辺・応用領域にターゲットを絞り、事業成長に注力
成長を加速させるため、M&A・提携も積極検討

特装車事業

環境事業

・林業の成長産業化政策
(林道整備・機械化の推進)

・海外の鉄道市場の成長
・政府のインフラ輸出戦略

・循環経済の進展

林業分野

- 林業物流の効率化を核に製品ラインナップを拡充



チッパー車
(2013年)



タワーヤード
(2016年)



ペレット搬送ユニット
(2018年)

鉄道車両製造

北陸重機工業株式会社
(2018年グループ化)



バイオエネルギー分野 水処理等

- バイオマス燃料化やバイオガスプラントの受注促進受注促進

- モリプラントの汚水処理、堆肥化施設の全国展開を支援



株式会社モリプラント
(2016年グループ化)



転換期を迎える社会の中、事業活動を通じて社会課題に取り組むことで
企業としての持続的成長性・付加価値向上につなげる

社会課題	当社グループの取り組み内容	SDGsアイコン
人手不足の深刻化 女性・高齢者の労働参画	<ul style="list-style-type: none"> 積載量の向上、トレーラー化(輸送・作業の効率化) 操作性・安全性の向上 省力化製品の提供 健康経営の推進 女性が活躍できる環境整備 	
社会インフラ老朽化 自然災害の多発	<ul style="list-style-type: none"> 各種特装製品の提供 生産能力の向上・柔軟化 BCPの推進 	
脱炭素化・循環型社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> 環境事業の推進(リサイクル、バイオガス等) 製品の省エネ化・電動化 環境負荷物質の低減 太陽光発電事業 環境マネジメントのグループ拡充 	
製造業の空洞化 持続可能なものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの技能伝承 工場見学・インターンシップの実施 持続可能な調達の推進 	



創出したキャッシュフローは持続的成長に向けた設備投資・戦略投資に積極活用

設備投資・戦略投資
3カ年累計 200~300億円

(参考) 2016~18年度の実績



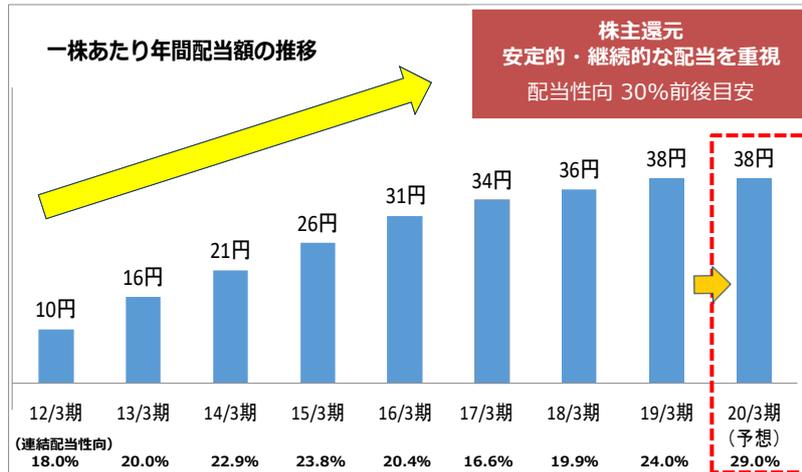
	2019.3期 実績	2020.3期 予想
設備投資	20億円	54億円
減価償却費	25億円	28億円
研究開発費	14億円	15億円



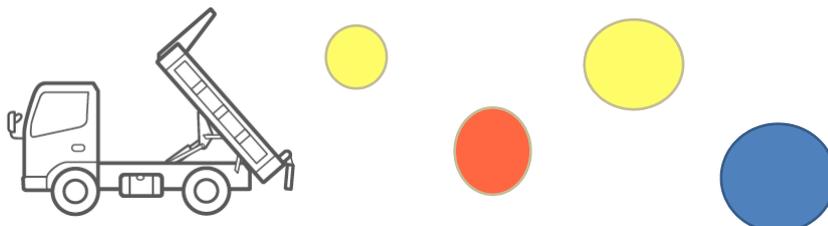
配当政策

配当に関する基本方針

当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。



TOPICS





To The Growth Cycle

TOPICS① 小型排出車「スライドバック」



- ・2017年より発売している小型排出車「スライドバック」の東京23区殿への納入が進んでいる。
(2019年5月現在:累計約50台・6区殿より受注。)
- ・約20年以上振りの新規での設定車種となる。
- ・小型廃家電の回収をはじめとした不燃物収集作業の効率化および、安全性・美観の向上に効果。

➡ **2020年の東京オリンピックを前に、受注確保および納入を進める。**



スライドバック



33



To The Growth Cycle

TOPICS② 「スケールダンプ」



【特長】

2019年3月25日発表

- ・大煌工業株式会社、大林道路株式会社との3社共同開発製品。
- ・ダンプトラックのボデー下の前側に一点、後側に二点の計三点に搭載したロードセル（計量装置）で積載重量を表示することが可能。
- ・過積載の防止を図り、定積載での運行をサポート。

➡ **高まる安全指向やコンプライアンス重視のニーズに応える製品の開発。**



前側ロードセル・シリンダ



外部表示計



後側ロードセル

34



本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。
本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く
本資料を複製・配布することを禁止します。